

今回のテーマ 高校生向け教材開発 ～小中でも一部使えます！～

新年度に入り、職場や環境がリニューアルされた方もいらっしゃるかと思います。学校においても真新しい制服に身を包んで、不安と期待が入り混じった表情で新入生が登校し、初々しさを感じます。私たちが初心を忘れてはいけないと気が引き締まります。今号では高校生・大学生向け教材開発のポイントを一部紹介します。4月から講演に多数出かけております細川さんに担当していただきます。

1. 高校生向け教材開発にあたって

私は青森市内にある株式会社ソフトアカデミーあおもりに勤務し、20年ほどIT関連の人材育成事業に携わっております。2018年1月のインストラクター養成講習会で学ばせていただき、ネットアドバイザーとして講座を担当させていただくようになりました。

2019年2月になって高校からの講座依頼が増えたことから、研究会のメンバー間で高校向けの教材作成について勉強会を開き、意見交換をすることとなりました。高校向け教材作成にあたって、勉強会の中で留意したのは主に下記の点です。

- ・利用は高校生の方がつ口。エビデンスをきちんと伝える。
- ・双方向のやりとり。クイズや考えさせる場面も取り入れる。
- ・自覚をどれだけ促せられるか。自分の生活を省みさせる。

・昨今話題の「不適切動画」についての関心度が高いことを踏まえる。卒業後は社会に出ることが多い学生に、間違ったネット利用によって未来をつぶさないように促す。また、不適切投稿をしてしまう理由として、①承認欲求、②カメラへの無意識の反応、③SNSの誤った知識(ネットでの情報拡散に関する認識の甘さ等)の3点があることを伝える。

勉強会は3月中に2回行い、素案で作成した教材案について、メンバーの方々から頂いたご意見を参考に教材案をまとめ、講義内容としては以下の構成を考えました。

- ① はじめに(スマホ、ゲーム、SNS利用状況についての質問)
- ② ネット利用の留意点(健康や学力への影響、ゲーム依存の事例等)
- ③ SNSトラブル(不適切投稿の事例を元に質疑応答)
- ④ 予防と対応、まとめ(ワークも実施)

作成にあたって工夫した点は、主に以下の内容です。

- ・ゲーム依存の例については、社内のスタッフの協力を得て、体験談を取り入れたこと。
- ・不適切動画の事例ではニュースサイトの画像も用いながら、バイト先、学校、ご両親など関係者や自身の現在や将来への影響について考えて頂くワークを取り取り入れたこと。
- ・ネット・SNS・ゲーム利用について、見直し案や相談相手についての意見交換をするグループワークを考えたこと。
- ・全体的に質疑応答形式を多く取り入れ、ともに考えて頂くことを意識した内容としたこと。

【教材スライド例】

不適切な動画投稿をすると・・・

【投稿した本人は・・・】

- ・進学、就職が難しくなる
- ・「ネットに一度アップしたものは、消しゴムでは消せない」
拡散がおさまらず、本人への中傷による精神的苦痛が続く
- ・家を引っ越すことになったことも

ほんの数分の投稿が人生を狂わせることがあることを十分に知ってください！

2. 3月の担当講座について

大学、中学校の2講座を担当しました。教材は高校向けに作成した内容をベースに対象別に再検討しました。実施概要をお知らせします。

(1)実施講座の概要

実施日	時間	実施先	受講者	テーマ
4/16(火)	80分	青森中央学院大学	190名(新入1年生)	ネット依存
4/19(金)	60分	東平内中学校	52名(中学1~3年生37名。他 教員、保護者)	ネット依存

(2)大学での講座について

- ・留学生や一人暮らしの学生などで、ゲームに没頭してしまう心配なケースがあることをうかがいました。
- ・ネット依存やスマホ依存の統計データは中高生対象のものが多く、大学生向けについては別途研究結果事例を調べ、取り入れました。
- ・ゲーム依存について、前述の教材作成に協力した弊社スタッフをゲストとして発表させて頂きました。
- ・SNSトラブルの関連テーマとして、社会人になってからの「情報の取扱い」の観点からの話題を取り入れました。
- ・具体的な予防策として、スマホの利用制限機能・アプリの紹介をしました。
- ・講義後に提出して頂いたアンケートでは、講座をきっかけに、ネットとの向き合い方を見直したいといった意見が多くみられ、担当の准教授より評価を頂きました。

【青森中央学院大学の講座風景】



(3)中学校での講座

- ・SNSトラブルのところで、LINE いじめ、ネットでの見知らぬ人との出会いについての注意を追加しました。
- ・できるだけかみ砕いた言葉で説明するように、教材や伝え方を工夫しました。
- ・最後に4名程度でのグループワークを行いました。その中で「マイルール」を作成し、クラスや家庭で話し合ってもらうように促しました。

【東平内中学校の講座風景】



以上、まだまだ微力ながら努めさせて頂きましたが、各対象の方々への

教材作成方針として、以下のことを考えてみました。皆様からの忌憚ないご意見も頂けましたら幸いです。

- ・中学生: ヒントを与えて、ともに考えることを促す。
- ・高校生: 自律的に考えることを促す。
- ・大学生: 社会人への準備(社会性習得)として、大人の考え方を学んで頂く。

3. 今後について

青森県内の教育委員会様より、小中学校の情報モラル教育担当者や学校指導の担当の方に向け、ネットの長時間利用についての健康被害についての講座の依頼を受けています。ご担当の先生からは、情報モラルに関しては授業でも周知を行ってきたが、この分野は教員の方々からまず学ぶ必要があるとお話をうかがいました。このような依頼は、今後も多くなることが予想されます。教材作成は、研究会として、①実態の把握、②科学的根拠、③指導・対策のポイントの3点を踏まえ、進めていきたいと考えております。